

かみさま

佐竹孝太郎

かみさまは見守った
気づかれないように、そつと
このままがいいと

かみさまは考えた
不安そうなあの子を、ほつと
あたたためあげたいと

かみさまは悲しんだ
ぼたぼたと涙を流しながら、ずつと
気づいてもらいたいと

かみさまは怒った
ほおをふくらませながら、むつと
このままじゃ危ないと

かみさまは後悔した
新しいかみさまと、いっしょに
遅かったなと

新しいかみさまは思っている
二度と操りかえすものか、と
教えてあげなければ、と
でも、あの時は

あの時は届かなかった思い
次は絶対に、伝えてみせるね